

行政説明

農林水産省経営局就農・女性課 課長補佐 松井瑞枝

私の方からは、「農業を職業選択肢の一つに」ということでお話させていただきます。家が農家じゃないのに農業できるの？と思う方もいらっしゃると思いますし、農業なんておじいちゃん、おばあちゃんがやっているイメージしかないという方もいるかもしれません。けれども最近では、農業とは無縁だった若い人も農業界に入ってきていますし、人を雇って農業をやるという会社も増えてきていて、言ってみれば、普通の会社に就職するように農業の会社に就職するというのが普通に見られるようになってきています。

農業界は今、大きく変化している真ただ中に入っていると思います。変化の一つ目は、「技術で稼ぐ農業へ」ということで、IoTとかAIが、農業界でもどんどん取り入れられてきています。例えば、GPSを駆使した自動運転の無人トラックでお米を収穫するとか、ドローンを飛ばして、一番おいしい状態の作物を見極めて収穫するとか、そういう技術がどんどん入ってきています。

二つ目は、「海外で稼ぐ農業へ」です。日本は少子高齢化で人口減少に向かっています。ということは、つまり食べる口がどんどん減っていくということなのですが、世界全体で見れば人口は増えてきているわけです。今、海外では日本食ブームということで、海外への日本食材の輸出に農林水産省として力を入れていて、実際に輸出は年々増えています。

三つ目が、「つながりで稼ぐ農業へ」です。農家も作物を作るだけではなくて、流通とか販売の部分まで担うようになってきていて、できた作物で加工品をつくる「6次産業化」に取り組んだり、ブランド化して、付加価値を高めて直接売っていきこうというような取り組みが進んでいます。このような大きな変化が、農業界では今、起こっていて、若い人とか、これまで農業に関わっていなかった方が入ってきていて、農業外からの視点というのが、工夫次第で生きてくる時代になっています。工夫次第で、大きな成果が得られるという、農業はそういう職業になりつつあります。

こちらは、現在、農業をやっている農業者の年齢構成のグラフです。普段、仕事として主に農業に従事している方を、基幹的農業従事者と言いますが、その方が現在、151万人います。このうち65歳以上の方が66パーセントを占めていて、非常にアンバランスな世代構成になっています。これから、上の世代の人たちがリタイアしていくと、農業者が一気に減ることになってしまいますので、我々としては若い人に農業に入ってきていただきたいということで、施策を講じているところです。

農業を始めるには、大きく分けて三つのパターンがあります。一つ目は一番上の新規自営就農という農家の息子さん、娘さんが実家の農業を継ぐパターン。二つ目は、新規参入ということで、これは農家の息子さんとか娘さんではない人が農業を始めるという、農業で起業をするというパターンです。三つ目は雇用就農という、最初にお話したような、普通の会社に就職するのと同じように、農業の会社に就職するというパターンで、このパター

ンが最近、増えてきています。

こちらは、農業に毎年、どれくらい新しく人が入ってきているかという推移のグラフになります。上に伸びている方のグラフからは、全体で毎年、5~6 万人の方が入ってきていることがわかると思います。その中でも緑色が、農家の子弟ということなのですが、数としては、この「新規自営就農者」が一番多くなっています。次いで、「新規雇用就農者」と「新規参入者」という順番です。下のグラフは、若い方、49 歳以下の方がどれくらい入ってきているのかということなのですが、ここ3年ぐらいは毎年、2万人を超える若い方が入ってきているという状況です。

こちらのグラフは、農業者のうち法人の形態をとって経営している経営体の数と、そこで雇用されて働いている人の数の推移を示したものです。農業は、家族で農業をしている形態がほとんどを占めているのですが、家業という形ではなくて、法人になって、会社として経営していく農家を増やしていこうということで、法人化を進めています。法人化が進めば、そこで働く人も増えていくことになるということです。

グラフからわかるように、法人経営も増えていきますし、そこで働く雇用者の方も増えていきます。右の方のグラフは、これらの法人の中でも、株式会社とか NPO 法人とか、農業に特化しているわけでない、いわゆる、普通の法人が農業にどれくらい入ってきているのかという数の推移です。平成 21 年に農地法という法律が改正されて、株式会社も農地を借りられるようになりまして、一般法人が農業参入できるようになり、年々、増えていきます。

こちらは、新規就農者に就農の理由について聞いたものです。「自ら采配を振れる」とか「農業はやり方次第で儲かる」というような企業マインドを持って入ってきている人が多くなっています。また、「農業が好き」とか「農村の生活が好き」というような、農的な生き方に魅力を感じて農業を始められる方もいらっしゃいます。

最初に世代間のバランスが悪いというグラフ見ていただきましたけれども、若い方に農業に入ってきていただくために様々な支援をしています。例えば、農業を始める前に、農業大学校ですとか農家で研修を受けるような場合に年間 150 万円を最長 2 年間、交付するというものです。また、農業を始めてからしばらくは、なかなか稼げないという現状がありますので、最初の 5 年間、年間 150 万円を交付するというような支援をしています。農業始める前後、最長 7 年間、支援を受けられるという非常に手厚い支援をしています。また、農業に興味を持っていただくために、まずは、実際に農業を体験してみる農業インターンシップなどの支援も準備しています。他にも、就農相談窓口を設けていたり、「新・農業人フェア」という就農イベントも開催しています。今年は7月15日の大阪開催を皮切りに東京、大阪、札幌で計6回、「新・農業人フェア」を開催することにしています。農業に少しでも興味のある方にご紹介いただければと思います。

また、大学のほうに出向かせていただいて、農業ガイダンスを実施するというような取り組みもしています。ここに載せているところは、これまで行かせていただいた例なのですが、業界研究とか講義にお邪魔させていただいて、農業界の最新情報ですとか、農業者

の方に実際、来てもらってお話をさせていただくとか、そのような取組をしています。学生さんからは、農業に対するイメージが変わったという感想もいただいています。今年度も引き続き、取り組みを行っていますので、うちの大学でもやってみようかなと思っていただけましたら、お声掛けいただければと思います。

最後に、女性の農業者についてお話させていただきます。女性は農業者の中の4割を占めていますので、重要な位置を占めています。農業で女性が頑張っているということをもっとアピールするため、農業女子プロジェクトという活動をしています。今年の11月で5周年になりまして、現在、約670名の女性農業者がメンバーになってくださっています。これらの女性農業者の知恵とかアイデアを民間企業と結び付けて、新たな商品とかサービスをつくるという活動をしています。このような活動を通じて、女性農業者の存在価値を高めて、同時に職業として農業を選択する女性が増えてくれればいいなということを目指して、取り組んでいます。

現在は、35社の企業の方と一緒に取り組みをさせていただいています。例えば、女性農業者目線の軽トラックということで、白だけじゃなくて、カラフルな8色の色から選べるようにしたり、女性の体形に合わせて座席の高さを下げて乗り降りしやすくしたり、おしゃれで、使いやすいような工夫がいろいろ詰まったものをつくったりしています。その他にもいろいろな企業さんと取り組みをしています。

本日は午後から農林水産省のブースも設けております。また企業のブースの中にも、農林業関係のブースもございますので、少しでも興味がありましたら、ぜひお越しいただければと思います。ありがとうございました。